

「 砂防体験で分かったこと 」

岐阜県 多治見市立小泉小学校 4年 木山 凛音

わたしは先週、土岐市にある「セラテクノ土岐」へ行ってきました。そこで土砂災害のときはひなんを急ぐことが大切だと考えました。

なぜかという、土砂災害は土石流や地すべり、がけくずれなどで住たくに大きなひがいをあたえることがたくさんあるからです。土石流で家がくずれたりするとひなんがおくれてしまいます。だからすばやくじゅんびして、土石流がくる前にひなんすることが大切です。地すべりやがけくずれは、山の方で起こりますが雨がふることで一気に流れてきます。しかも山の方で起こるので大きな木や岩などがどんどん流れてきます。セラテクノ土岐でこう雨体験をしてこんな大雨じゃ土砂災害になってしまうなどあらためてこわくなりました。

そんなときに活やくするのが「砂防えんてい」です。砂防えんていのはたらきは、たくさん流れてくる土石流を何度も止めてくれることです。土石流で流れてくる岩の重さは大人の男せい3千人分くらいのももあるそうです。そんな岩や木をたくさん止めてくれます。セラテクノ土岐でもけいを使って実験をしました。砂防えんていがある町とない町にそれぞれすなや石、水を流します。すると、ない町では橋がこわれてしまいました。しかし、ある町では砂防えんていが土石流を何回も止めてくれるため3回やっても町はぶじでした。この実験で砂防えんていはこんなにも町を守っているんだなど感心しました。今年の7月に愛媛県では大雨で山くずれが起き、住民の人たちが苦しみました。中には、なくなってしまう人もいました。ニュースを見ても土や石が大通りまで広がっていました。

このように災害はいつ起こるか分かりません。予想ができることもあります。それでもきけんです。ときにはたくさんの人命をうばいます。わたしは日ごろからのじゅんびをし、ハザードマップなどできけんをかくにんしてみることが大切だと思いました。体験後にはひなん所なども一番近い場所をはあくしておきました。こう雨体験やもけいの実験を通して砂防えんていの大切さが分かったし、わたしたちの知らないところで砂防えんていは活やくしてすごいなと思いました。災害は弱いものからとても強いものがあります。それぞれちがったとくちょうがありますが気をつけることは同じです。にげおくれる前にすばやくじゅんびをして、1秒でも早くひなん所へ行くことです。社会の時間に災害の起きている動画を見ました。町全部がかん水していて、水がひざくらいまでできていました。さらに、大きな土石流がどんどん流れてきていました。このようなことになる前に、すばやくじゅんびをし、ひなんを急ぐことが大切だとわたしは考えます。この砂防体験で学んだことを今後に活かしたいです。1つでも多くの命が失われないといいとわたしは思います。